

(2) 文化芸術の振興

【施策の目的】

広く県民が文化・芸術を鑑賞し、参加し、創造しながら、いきいきと心豊かに暮らせる地域をつくります。

【評価】

<前年度から評価実施年度上期までの成果と課題>

- ・ 県民文化祭の出品者延べ数は、2, 788人であった。文芸部門では、文芸作品公募の表彰式と文芸フェスタを同日に開催し、若年層の参加増を図り、県総合美術展では、会期中にワークショップを開催し、体験機会の提供により参加に向けた意識醸成を図ったが、参加者の広がり課題である。
- ・ 青少年の文化活動の推進について、文化芸術次世代育成支援事業では、県内の文化芸術団体が小中高等学校や特別支援学校に赴きワークショップを実施している。また、青少年芸術文化表彰及び児童生徒学芸顕彰の被表彰者数は増加している。引き続き、文化芸術を担う次世代人材育成を継続していくことが必要である。
- ・ 県立美術館では、子どもたちが館内広報を体験する「こども広報隊」の事業を開始し、子どもとその家族へのサービス拡大による新たな美術館ファン獲得を図った。また、「北斎プロジェクト」により、所蔵する「北斎コレクション」の魅力の情報発信に取り組んだ。石見美術館では、全国的にも注目度の高い企画展や特色のある特別展等を開催し、幅広い年代層への鑑賞機会を提供し、目標を上回る観覧者数となった。
- ・ 県民会館といわみ芸術劇場では、館内で実施するコンサートや演劇等の鑑賞事業をはじめ、館外においても地域の施設や関係団体と連携したステージや学校への芸術家派遣事業等を実施し、文化芸術の鑑賞、育成、創造の機会の充実に取り組んだ。
- ・ いずれの文化施設も老朽化等による設備、備品の更新、修繕の規模が大きくなってきており、安全かつ快適に利用いただけるよう計画的に更新、修繕を行うことが課題である。

<第2期島根創生計画初年度から評価実施年度上期までの複数年度にわたる成果と課題>

※上記で重複しない成果・課題を記載

この欄は複数年度にわたる成果と課題を記載するため令和9年度から記載

【今後の方向性】

①創造的な文化芸術活動の拡大、文化芸術活動を担う人材育成

県民文化祭は、文化芸術団体等との連携を深め、各事業のPRを工夫するなど情報発信に取り組み、幅広い世代からの参加を促していく。

青少年の文化活動推進については、引き続き表彰及び顕彰の推薦に該当する大会や成績・賞位の基準を点検し、市町村への情報提供を行うとともに、学校・地域・文化芸術団体等と連携して、児童・生徒が多様な文化芸術に触れる機会等を充実させ、文化活動への意欲・関心を高めていく。

②県立文化施設の活用と機能の充実、県内の文化施設の連携強化

県立美術館が保有する貴重な北斎コレクションを大切に守り伝え、多くの方に作品との出会いの場を提供する「北斎プロジェクト」を推進する。

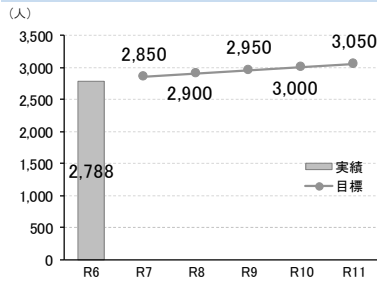
県立美術館と石見美術館では、引き続き魅力ある企画展や、両館の特色を活かした常設展を開催するとともに、指定管理者や関係機関等と連携した効果的な情報発信などにより、観覧者数の増加を図る。

県民会館、いわみ芸術劇場では、芸術文化の拠点施設として、館内でのホールイベントやワークショップの充実を図るとともに、館外でのアウトリーチ活動や地域の文化施設と連携した取組を積極的に展開し、県民の文化芸術活動への参加を促進していく。

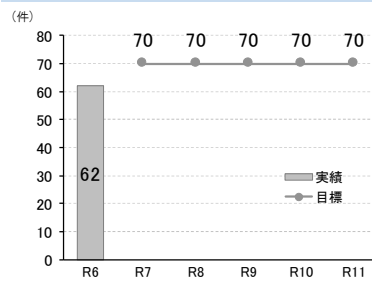
施設の修繕、設備更新については、関係機関と協議を進め、計画的に進めていく。

【施策の主なKPIの状況】

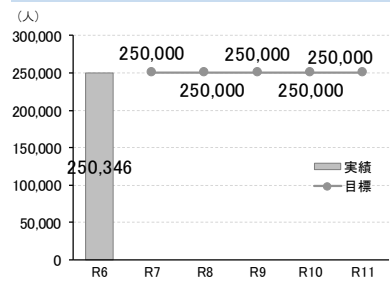
1) 県民文化祭出品者延べ人数【当該年度4月～3月】



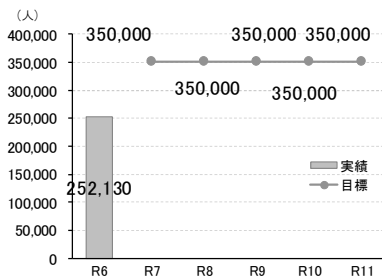
2) 青少年芸術文化表彰及び児童生徒学芸顕彰の被表彰団体(個人)件数【当該年度4月～3月】



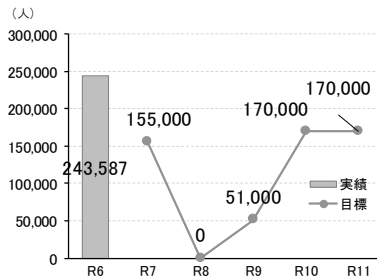
3) 県立美術館入館者数【当該年度4月～3月】



4) 芸術文化センター入館者数【当該年度4月～3月】



5) 県民会館大・中ホール利用者数【当該年度4月～3月】



※R8は休館の予定

施策の主なK P I

施策の名称		VI-2-(2) 文化芸術の振興								
番号	K P I の名称	上段は目標値、下段は実績値					単位	計上分類	備考	
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度				令和11年度
1	県民文化祭出品者延べ人数【当該年度4月～3月】	2,850.0	2,900.0	2,950.0	3,000.0	3,050.0	人	単年度値		
		2,788.0								
2	青少年芸術文化表彰及び児童生徒学芸頭彰の被表彰団体(個人)件数【当該年度4月～3月】	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	件	単年度値		
		62.0								
3	県立美術館入館者数【当該年度4月～3月】	250,000.0	250,000.0	250,000.0	250,000.0	250,000.0	人	単年度値		
		250,346.0								
4	芸術文化センター入館者数【当該年度4月～3月】	350,000.0	350,000.0	350,000.0	350,000.0	350,000.0	人	単年度値		
		252,130.0								
5	県民会館大・中ホール利用者数【当該年度4月～3月】	155,000.0	0.0	51,000.0	170,000.0	170,000.0	人	単年度値		
		243,587.0								

(第2期島根創生計画に掲げる施策の【取組の方向】)

①創造的な文化芸術活動の拡大

県民文化祭の開催や文化事業に対する助成などにより、文化芸術活動の裾野の拡大、県民の自主的かつ創造的な文化芸術活動の支援に取り組めます。

②文化芸術活動を担う人材育成

学校・地域・文化芸術団体等と連携して、多様な文化芸術に触れる機会を提供するとともに、青少年が地域において文化芸術活動に継続して親しむことができるよう環境づくりに取り組めます。

③県立文化施設の活用と機能の充実

県立美術館、芸術文化センター、県民会館などの文化施設を活用して、多様な文化芸術の鑑賞・発表機会の充実が図られるよう、また、県民にとって利用しやすい施設となるよう、機能の充実などに取り組めます。北斎コレクションなど世界的にも貴重なコレクションを活かし、観光振興・地域振興につながる取組を進めます。

④県内の文化施設の連携強化

県内の文化施設の連携を強化するなどにより、広く県民が文化芸術に触れる機会の充実を図るとともに、文化芸術の振興を通して、観光振興・地域振興につなげます。

事務事業の一覧

施策の名称		VI-2-(2) 文化芸術の振興				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	創造的な文化活動推進事業	文化活動を行う県民	自主的な文化活動の促進と活動水準を向上する。	17,615	13,469	文化国際課
2	文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業	文化芸術活動を行う県民	県民の文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を公に顕彰することで、県民の励みとする。	118	173	文化国際課
3	芸術・文化の情報発信・収集事業	市町村、文化団体、文化施設、県民等	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る。	7,933	7,636	文化国際課
4	県立美術館事業	県民及び来館者	所蔵するコレクション及び美術館自体が県民の誇りとなり、地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する。	506,900	536,068	文化国際課
5	芸術文化センター事業	県民及び来館者	・文化芸術に対する県民の関心が高まる。 ・地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる。	537,724	629,389	文化国際課
6	島根県民会館事業	県民及び文化芸術団体など	幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られる。	298,559	306,681	文化国際課
7	部活動改革支援事業	市町村立中学校・県立学校の生徒	教員の業務負担軽減を図り教育の質の向上を図る。	88,884	167,496	保健体育課・社会教育課
8	青少年文化活動推進事業	児童・生徒	「豊かな心」を育むとともに、次代の文化活動の担い手を育成する。	9,312	9,671	社会教育課

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		創造的な文化活動推進事業			
目的	誰(何)を対象として	文化活動を行う県民	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	自主的な文化活動の促進と活動水準を向上する		17,615	13,469
			うち一般財源 (千円)	17,615	13,469
令和7年度の取組内容	県民文化祭の開催や次世代育成支援等、県民が企画段階から参加し創り上げる島根の芸術文化の事業を行う。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	県民文化祭出品者延べ人数【当該年度4月～3月】	目標値			2,850.0	2,900.0	2,950.0	3,000.0	3,050.0	人	単年度値
		実績値	2,683.0	2,788.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		【R6年度 各県民文化祭主催事業参加者数(単位:人)】 ①文化芸術次世代育成支援事業 3,521 ②県総合美術展(県展)開催 7,109 ③特別参加展(硬筆アート展)開催 938 ④文芸作品募集及び「島根文芸」発行 2,293 ⑤しまね文芸フェスタ開催 174 【R6年度 中四国文化の集い(島根県開催)参加者数】 1,163人									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「島根県文化芸術振興条例」の制定を踏まえて、文化芸術の裾野の拡大、次世代育成に主眼をおき、県民文化祭への若者の参加拡大や文化芸術の担い手の育成などの取組を推進している。 ・平成24年度から開始した文化芸術団体が学校などに出向いて実技指導・合同公演を行う文化芸術次世代育成支援事業は、各実施団体と連携して多くの学校の参加につながっている。 ・令和5年度に引き続き県総合美術展において工芸のワークショップを開催し、体験機会の提供による裾野拡大を図った。 ・文芸作品公募の表彰式と文芸フェスタを同日に開催し、若年層(受賞した学生とその家族等)の参加増を図った。 ・中四国文化の集いを島根県で開催。各地域の伝統文化を継承する団体の活動や次世代育成の成果・重要性を多くの観客に発信した。
課題分析	①課題	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者や事業が固定化、高齢化し、新たな取組が少ない傾向にある。 ・文化芸術次世代育成支援事業について、学校からの実施希望は年々増えているが、実施地域や希望メニューに偏りがあること等ニーズに対応できない状況が生じている。
	②原因	<ul style="list-style-type: none"> ・県総合美術展(対象:高校生以上)への高校生の参加、文芸フェスタ・文芸作品公募への小中高生の参加が少ない。 ・県民文化祭の知名度が低く、参加意欲の向上につながっていない。 ・新しいジャンルの場合は、応募する学校側で事業内容のイメージがしづらい状況がある。
	③方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・県民文化祭については、幅広い県民が参加できる開かれた文化祭にすることをめざし、各事業間の連携を図り、学校等に個別に働きかけるなど、積極的なPRに努める。 ・共催事業については、市町村文化協会等への参加の働きかけを行うと共に、しまね文化ファンドとの情報共有等を活用して新規参加団体の掘り起こしを図る。 ・次世代育成支援事業の学校向け募集パンフレット等の構成を工夫し、事業内容をイメージしやすい内容とする。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要	担当課 文化国際課
------------------	-----------

事務事業の名称		文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業			
目的	誰(何)を対象として	文化芸術活動を行う県民	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県民の文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を公に顕彰することで、県民の励みとする。		うち一般財源 (千円)	118
令和7年度の取組内容	本県の文化の発展に貢献することが期待され、活動を奨励するにふさわしい者に奨励賞を贈り、これを顕彰する。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	県内の文化活動の動向をメディア等で注視し、奨励するにふさわしい者の情報収集に努めた。				
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
		目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値		
1 島根県文化奨励賞の表彰件数【当該年度3月時点】	目標値	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	件	単年度値
	実績値	2.0	2.0							
	達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2	目標値									
	実績値									
	達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実	本県文化振興への貢献が期待できる活動を行っている者を平成2年度から毎年1~2名表彰しており、令和6年度までに69個人・団体が受賞した。									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・受賞について新聞等でも報道され、文化奨励賞の存在や受賞者・団体の活動を周知することができた。
課題分析	① 課題	・表彰対象者として推薦される件数が減少している。
	② 原因	・若い世代の活動等を十分に把握できていない。 ・表彰制度の周知が十分にできていない。
	③ 方向性	・新聞・テレビ・インターネット等からも情報収集に努め、文化団体や若手人材等の活動を把握する。 ・県の広報媒体等も活用して受賞者・団体の活動を紹介するなど、賞の認知度を高める取組を進める。 ・市町村・文化団体等に引き続き積極的な推薦を働きかける。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	文化国際課
-----	-------

事務事業の名称		芸術・文化の情報発信・収集事業				
目的	誰(何)を対象として	市町村、文化団体、文化施設、県民等		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る。			7,933	7,636
				うち一般財源 (千円)	0	0
令和7年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・国等の芸術文化に対する助成情報等を収集し、速やかに、かつ確認しやすい形で、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供する。 ・助成を希望する事案について、市町村等から情報提供を受け、申請の可否、内容等の相談に乗る。 ・各種助成事業の活用状況(申請・採択件数等)を情報提供するなど、今後の取組の参考にしてもらい、助成事業の有効活用に努める。 				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点						
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策		
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	(一財)地域創造ほか主要助成金等への県内申請件数【当該年度4月～3月】	目標値			43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	件	単年度値
		実績値	42.0	40.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・助成情報等は、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供している。 ・地域創造の助成金申請は、平成22年度以降、毎年度、平均4件程度の申請がある。 ・様々な助成事業を活用し、芸術文化に関わる人材や団体の育成・支援の取組が行われている。(R6年度申請実績:自治総合センター7件、エネルギー文化・スポーツ財団17件ほか) 									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各種助成事業に関する情報を市町村や文化団体等に周知することで、中山間地域や離島等も含めた県内各地で文化・芸術的な活動が実施され、県民が芸術文化を鑑賞し、自ら参加する機会が増加している。 ・県民が生の芸術文化に触れることで、より興味・関心を高め、自主的・創造的な活動に繋がっている。 	
課題分析	①課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に国や各種団体の助成制度の情報提供をしているが、活用が一部に限定される傾向があり、広がりが見られない。
	②原因	上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> ・各種制度の活用につながる情報が文化団体等へ十分に伝わっていない。 ・文化団体等に所属せずに芸術文化活動を実施している団体等へ各種制度の情報が行き渡っていないことが考えられる。
	③方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県公式ホームページの文化振興のページに掲載している各種助成制度の情報を充実させ、現在各団体へ所属していない方や文化・芸術的な活動に興味がある方(団体)へ情報が届く環境を整える。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	文化国際課
-----	-------

事務事業の名称		県立美術館事業				
目的	誰(何)を対象として	県民及び来館者		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	所蔵するコレクション及び美術館自体が県民の誇りとなり、地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する			506,900	536,068
				うち一般財源 (千円)	404,219	443,844
令和7年度の取組内容		魅力ある企画展、コレクション展を開催し、観覧者数の増加に取り組む。「かぞくの時間」や学生の学習の場を創出するなど、次世代を担う子ども・若者に向けた取組やサービスを拡充させる。「北斎プロジェクト」により、県内外へ美術館の魅力を発信し、全国からの観光客数を増やす。上記により、美術館が島根の美術振興、文化交流の拠点となることを目指す。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと		公式ホームページのリニューアルやSNSでの情報発信などデジタル広報を強化した。親子向けに「こども広報隊」の事業をスタートし、新たな美術館ファン獲得を図った。また、県内外において北斎コレクションの魅力を伝えるワークショップの開催やツアー造成を積極的に行い、美術館の魅力発信、向上に取り組んだ。				
1	上位の施策	Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	県立美術館入館者数【当該年度4月～3月】	目標値			250,000.0	250,000.0	250,000.0	250,000.0	250,000.0	人	単年度値
		実績値	278,603.0	250,346.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 企画展観覧者数:目標103,000人に対して実績64,935人であった。(達成率63.0%) コレクション展観覧者数:目標62,500人に対して実績61,775人(達成率98.8%) 企画展評価アンケート:大変良い・良い94.9%(R5実績92.9%) 旅行ツアーの受入:催行数221件、来館者数4,719人(R5年度 催行数95件、来館者数2,194名) 北斎プロジェクト館外ワークショップ:活動日数20日、参加者数2,891名(R5実績5,056人) かぞくの時間利用者数:664人 									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 公式ホームページのリニューアルやSNSでの情報発信などデジタル広報を強化した。 北斎プロジェクトとして県内外の様々な施設やイベント等でワークショップを実施した。また、地元児童クラブでのワークショップや学校を対象とした「北斎鑑賞バス」を運行し、県内の児童・生徒向けに北斎コレクションの魅力を伝えることができた。 従来の「かぞくの時間」「絵本とお出かけ展示室」に加え、「こども広報隊」として子どもたちが館内広報の体験をする事業をスタート。美術館が親子で楽しめる場所となり、新たなファン作りにつながった。 これまでのツアー造成で関係性の深まった県内外の団体・施設の協力や紹介により、昨年度を大幅に上回るツアー客の受け入れを実現した。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 企画展(「アンアン」「ボバイ」のデザイン展を除く)では、観覧者の約7割を50代以上が占めており、40代以下の来館者が少ない。 施設の適切な保守・管理が必要であるが、設備等の修繕が遅れており、利便性や所蔵品の管理面で支障等をきたしている。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 特に若年層に対して企画展や所蔵コレクション等の情報が十分に届いていない。 開館からの年数経過で美術館自体の目新しさ、来館につながるきっかけが少なくなっている。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 北斎コレクションをはじめとした所蔵コレクションの価値の高さと魅力について引き続き広報を強化する。 子ども・親子に向けた取組やサービスをPRすることにより親子客の利用増を図る。 企画展と連動したイベントのほか、宍道湖畔の立地を活かしたイベントの実施や学生の美術活動の一端を担うことで、若年層の来館のきっかけを増やす。 施設・設備の整備計画を立て、計画的に修繕・整備を行っていく。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		芸術文化センター事業				
目的	誰(何)を対象として	県民及び来館者		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	文化芸術に対する県民の関心が高まる 地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる			537,724	629,389
				うち一般財源 (千円)	244,626	328,564
令和7年度の 取組内容	美術館と劇場との複合施設である芸術文化センターの特色を活かした魅力的な事業を展開し、県内外からの集客を図る。 開館20周年となる本年は、実施する事業はすべて20周年のロゴを使用するなどのPR強化を行い、国内外からの誘客を促進し、地域の活性化や文化観光の振興につなげる。					
令和6年度に行った 評価を踏まえて 見直した点	・より効果的な情報発信と利便性向上のため、ホームページのリニューアルを行った。 ・全国的にも注目度の高い企画展を開催し、SNS等を活用した広報活動を行うことで、県外からの集客につなげた。					
1	上位の施策	Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上 分類
1	芸術文化センター入館者数【当該年度4月～3月】	目標値			350,000.0	350,000.0	350,000.0	350,000.0	350,000.0	人	単年度 値
		実績値	283,225.0	252,130.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべき データや客観的事実		<p>・石見美術館では企画展を4本、特別展を1本実施し、美術館の入館者数目標52,000人を上回る54,488人の実績となった。</p> <p>・いわみ芸術劇場では館内外で鑑賞・育成・創造事業を積極的に展開した。なお、館内事業においては目標100,000人に対して実績83,696人であった。</p> <p>このほか、地域施設や団体と連携して開催した館外での鑑賞事業や、アウトリーチを通じた若年層への体験・鑑賞機会提供も積極的に実施した。</p>									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある企画展や特別展を開催することで、幅広い年代層への鑑賞機会提供につなげた。 ホールの優れた音響設備を維持していくため、設備更新を行い、さらなる魅力の向上と利用促進を図った。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 入館者数が減少していることに加え、入館者全体に占める島根県内からの入館者の割合も減少していることから、多くの県民の方に足を運んでいただく工夫が求められる。 安全かつ快適に利用できる環境を整えるための施設修繕・更新、備品更新に多くの経費が必要となっている。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 美術館と劇場の複合施設の特性を活かした芸術文化センターの魅力効果を効果的に発信できていない。 開館から19年が経過し、施設・設備等の性能劣化や老朽化が進行している。
		<ul style="list-style-type: none"> 直接的な広報(CM等)や間接的な広報(SNS等)を効果的に展開し、県内外のファンを取り込む。また、来館契機の増加にもつながる取り組みとして、地域の関係者の育成事業や活動支援も継続的に展開していく。 指定管理者や関係機関等と連携し、効果的な広報展開を検討し、実施していく。 来館者の安全・快適性を確保し、魅力的な公演の誘致につながる施設・設備管理を実施するため、管財課や営繕課、指定管理者と連携して、計画的な設備・備品の修繕や更新等を行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	文化国際課
-----	-------

事務事業の名称		島根県民会館事業				
目的	誰(何)を対象として	県民及び文化芸術団体など		事業費(千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られる			298,559	306,681
				うち一般財源(千円)	122,087	142,997
令和7年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> コンサートなどの鑑賞機会の提供 文化芸術活動を支える人材の育成 県民参加による特色ある地域文化の創造 					
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	<ul style="list-style-type: none"> 県にゆかりのあるアーティストや芸術団体の活動を支援する「シマネアーティストステージ」を通年実施とし、年4回上質な音楽を県民に届けるコンサートを開催した。 Instagramの運用を本格的にスタートし、広報・利用促進(取組のPRや文化情報発信)の強化を図った。 					
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策		
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策		

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	県民会館大・中ホール利用者数【当該年度4月～3月】	目標値			155,000.0	0.0	51,000.0	170,000.0	170,000.0	人	単年度値
		実績値	237,829.0	243,587.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> 年間入館者数:453,382人(R5年度実績:442,672人) 主催鑑賞事業アンケート結果:「満足」「まあ満足」の割合98.7%(R5年度実績:98.7%) 文化芸術による子どもの育成事業(芸術家学校派遣)実績:県内25校、延べ2,045人の児童生徒が参加(R5年度実績:19校、延べ901人) 一般県民を対象とする舞台スタッフ研修会(県内文化芸術活動支援)実績:年11回開催、延べ168人が参加(R5年度実績:10回、185名) 									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ホール利用者数、入館者数とも前年度に比べ増加し、引き続き利用者評価も高い水準を維持しており、多くの県民に良質な文化芸術の鑑賞機会を提供することができた。 「シマネアーティストステージ」通年開催による文化芸術の担い手の活動機会創出、舞台スタッフ研修会の充実による技術支援など、文化芸術活動を支える人材の育成に努めている。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> 館内での鑑賞事業(主催事業)の観客数が伸び悩んでいる。 文化芸術活動の担い手が不足している。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> 施設が老朽化するとともに、舞台装置等が経年により陳腐化し、良質な舞台芸術の提供が難しくなっている。 文化芸術活動の次世代の担い手が不足し、高齢化が進んでいる。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> 舞台設備(照明や吊り物等)の計画的な改修や館内のバリアフリー化を実施する。 客席とステージが近いことによる良さを生かした企画を検討する。 鑑賞機会の確保やワークショップの実施等による次世代育成を支援する。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課	保健体育課・社会教育課
-----	-------------

事務事業の名称		部活動改革支援事業				
目的	誰(何)を対象として	市町村立中学校・県立学校の生徒		事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	教員の業務負担軽減を図り教育の質の向上を図る。			うち一般財源 (千円)	88,884
令和7年度の取組内容		・教員の教育活動充実に向けて、市町村立中学校及び県立学校の部活動において、部活動指導員等の外部人材を活用する学校を支援することで、教員の負担軽減を図る。 ・部活動地域移行市町村連絡会議や部活動地域移行に係るセミナーを開催すると共に、実施の参考となる具体的な取組方策(パターン・モデル集)を作成し、市町村や地域関係者等との情報共有と理解促進を図る。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・全校を通じた運動部、文化部間において地域人材が必要な学校に配置できるように対応するため、予算の統合を行っている。また、学校で任用に至るまでの事務処理を簡素化し学校現場での負担軽減を図っている。				
1	上位の施策	VI-1-(2) 学びに向かう力と人間性を高める教育の推進	3	上位の施策	VI-1-(3) 学びを支える教育環境の整備	
2	上位の施策	IV-1-(1) 学校と地域の協働による人づくり	4	上位の施策	VI-2-(1) スポーツの振興	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類	
1	公立中・高校における部活動の指導に携わった外部指導者の数【当該年度3月時点】	目標値	/	/	650.0	700.0	750.0	800.0	850.0	人	単年度値	
		実績値	560.0	586.0								
		達成率	-	-	-	-	-	-	-			%
2		目標値	/	/								
		実績値										
		達成率	-	-	-	-	-	-	-			%
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・部活動指導員の配置 【R2】中学校:14名、高等学校等:45名 【R3】中学校:24名、高等学校等:63名 【R4】中学校:27名、高等学校等:72名 【R5】中学校:41名、高等学校等:84名 【R6】中学校:57名、高等学校等:91名 【R7】中学校:68名、高等学校等:91名 ・地域連携指導員の配置 【R6】中学校:3名、高等学校等:18名 【R7】中学校:8名、高等学校等:25名 ・地域指導者の配置 【R2】中学校:184名、高等学校160名 【R3】中学校:149名、高等学校141名 【R4】中学校:229名、高等学校等:193名 【R5】中学校:226名、高等学校等:209名 【R6】中学校:235名、高等学校等:182名 【R7】中学校:242名、高等学校等:200名										

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・将来にわたり地域の中で子どもたちの豊かなスポーツ・文化芸術活動の環境を整えていくことを目的として、部活動地域移行検討委員会を立ち上げ、令和7年3月に「島根県公立中学校における部活動の地域連携・地域移行に係る方針」を策定。 ・適切な練習時間や休養日の設定など部活動の適正化を進めている市町村を対象に、部活動指導員や地域指導者の配置に係る経費の一部を補助。 ・将来的に部活動指導員への移行を想定する地域連携指導員を新設。また、地域指導者の謝金に交通費相当額の一部を加算することとし、指導者の幅広い確保及び段階的な養成を図った。また、県立学校においても、同様に部活動指導員等の配置を行い教員の負担軽減を図った。 ・部活動指導員等の総数は年々増えており、教員の負担軽減に繋がっている。
課題分析	① 課題	・学校現場では、部活動指導員等の更なる配置を希望しているが、部活動の指導が可能な地域人材が不足している。 ・配置のための予算が不足しており、各学校からの要望(配置人数及び指導時間)を全て賄うことができない。
	② 原因	・地域において部活動指導員等の制度が浸透していない。 ・部活動指導が可能な人材を養成する仕組みが確立されていない。 ・国の補助対象が、中学校の「部活動指導員の配置」に係る費用のみとなっている。
	③ 方向性	・単独で指導(単独での引率も可能)を行い、将来的に部活動指導員への移行を想定する地域連携指導員の区分を設け、積極的な活用を促すことで、教員に代わって指導ができる人材の養成を図る。 ・部活動指導員等を十分に確保するための財政措置について、高等学校を含めて補助対象の拡充を行うよう、国に対し要望を行う。 ・学校現場において、制度を効果的に活用することができるよう、市町村担当者会議や市町村が開催する検討委員会等において、制度説明や意見交換を行い地域での浸透を図る。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

社会教育課

事務事業の名称		青少年文化活動推進事業			
目的	誰(何)を対象として	児童・生徒	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	「豊かな心」を育むとともに、次代の文化活動の担い手を育成する。		うち一般財源 (千円)	9,312
令和7年度の取組内容	・高校の文化部活動を活性化するため、島根県高等学校文化連盟(県高文連)に対し支援を行う。 ・全国規模の大会等で入賞した児童・生徒を顕彰する。 ・文化庁や文化団体の各種事業を活用し、児童・生徒に対して優れた文化芸術に親しむ機会を提供する。				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直した点	教員の負担軽減と推薦漏れの防止のため、学校長だけでなく市町村教育委員会からの推薦を可能とするように青少年芸術文化表彰要綱及び児童生徒学芸顕彰要項を改正した。				
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	VI-1-(6) 社会教育の推進	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	青少年芸術文化表彰及び児童生徒学芸顕彰の被表彰団体(個人)件数【当該年度4月～3月】	目標値			70.0	70.0	70.0	70.0	70.0	件	単年度値
		実績値	54.0	62.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-	-	%
2		目標値									
		実績値									
		達成率	-	-	-	-	-	-	-	-	%
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・青少年芸術文化表彰(知事表彰)・児童生徒学芸顕彰(教育長顕彰)件数 【知事表彰】 R6:第1期 1団体 1個人 第2期:該当者なし 【教育長顕彰】 R6:第1期 14団体 13個人 1指導者 第2期:1団体 31個人									

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	青少年芸術文化表彰及び児童生徒学芸顕彰の件数は、増加している。
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点
	② 原因	青少年芸術文化表彰及び児童生徒学芸顕彰への推薦件数が少ない。 近年、文化・芸術分野における全国大会が多様化し、各学校が推薦するに当たって、該当する大会や成績・賞位の範囲が明確になっていない。
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性 より多くの児童・生徒・指導者を表彰・顕彰するために、引き続き推薦に該当する大会や成績・賞位の点検を行い、市町村への情報提供を行う。

